

加治木校区まちづくりプラン (加治木校区振興計画)



平成 29 年 3 月

《 目 次 》

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	2
I 加治木校区の概要・・・・・・・・	3
1 加治木校区の位置図	3
2 地域の歩み・概要	4
3 加治木校区の現状	5
4 加治木校区の特色	7
5 課題整理とその対応の在り方	9
6 20 年後の夢を描こう（地域・全体）	10
II 加治木校区コミュニティ協議会がめざす将来像	11
1 コミュニティ協議会の現状	12
2 スローガン（キャッチフレーズ）	18
3 まちづくりの方針	18
4 加治木校区コミュニティ協議会の新体制づくり	20
III 計画の推進に向けて	27
1 推進体制	27
2 推進に向けて	28
IV 資 料 編	29
1 加治木校区の特色ある風景・史跡・伝統芸能等	29
2 計画策定の経過	38
3 加治木校区まちづくりプラン策定委員会委員	38
終わりに	39

は じ め に

「加治木校区まちづくりプラン（加治木校区振興計画）」の作成に当たって

現代社会においては、御存じのとおり、地域を取り巻く環境や住民のニーズ・価値観が多様化かつ複雑になる一方で、人と人とのふれあいや近所付き合いなどは年々希薄になってきています。さらに、多発する災害や環境問題、少子高齢化、子供たちの健全な育成などといった様々な地域の課題に対応していくために、地域住民による地域のための「まちづくり」を進めていくことが必要になってくると思われます。

そこで、地域の「まちづくり」活動を維持継続して進めていくためにも、我々住民自らが「まちづくりプラン」を作成し、そのプランに添って協力し合って解決に向けた活動が大切でその中核組織としての組織が必要になってくると思われます。

その中心的役割を担うために、「校区コミュニティ協議会」が組織されたわけです。

校区コミュニティ協議会が中心となり、いくつかの組織の方々にも協力をいただき、加治木校区におけるすばらしいところや課題を洗い出し、我々校区の長所はさらに伸ばしていき、課題については、その解決に向けての方針や取り組みや役割分担などをまとめ、これからの加治木校区全体の目指す羅針盤として、この「加治木校区まちづくりプラン（加治木校区振興計画）」を作成することにしました。

平成 2 9 年 3 月



加治木校区まちづくりプラン

策定委員会委員長

小 島 伸 一

太鼓踊り

2. 地域の歩み・概要

加治木は、平安時代の末から、鎌倉、室町の時代にかけて、国分正八幡宮（鹿児島神宮）の荘園の一部でした。その縁から網掛川の西側に位置する木田地区は、今でも鹿児島神宮と深い関わりを持ち、神宮初午祭では木田馬が御神馬として多くの奉納馬に先立って参拝、これに馬を扱う人々、踊り子等が総勢150名も続きます。

初夏の神宮お田植え祭では、木田地区を中心として選抜された早乙女・早男が、神宮御神田で木田郷お田植え歌に合わせてお田植え

が行われます。また、夏の盛りの盆明け8月16日には、木田郷太鼓踊りが勇壮に踊られます。

昭和56年、木田本通り線が開通し、加治木団地は新生町と名付けられました。それまでは小鳥神社しかなかった無人の水田（一部、畑地）地帯に、名前のおとおり、新しい町が生まれたのです。昭和61年4月に湯之谷川が網掛川へ合流する場所近くの水田を埋め立てて加治木小学校が開校しました。このとき校区の変更により、木田地区の日豊本線より北側集落が錦江小校区から、高井田集落が杓城小校区から分かれて、加治木小学校の校区となり現在に至っています。

本校区の北部は、集落内に水田や用排水路、稲作文化を象徴する史跡などが点在し、姶良市を代表する農村地域でありましたが、九州自動車道や国道10号加治木バイパスの開通、そして、鹿児島市のベッドタウンとして宅地が増加するなど、近年は都市化が進み、農村としての機能が低下しつつあるのが現状です。



龍門滝

3. 加治木校区の現状

[平成28年4月1日現在]

(1) 人口等

- ① 人 口
男性 2, 436人 女性 2, 872人 合計 5, 308人
- ② 世帯数 2, 395世帯
- ③ 高齢化率 29. 1% (65歳以上) (平成28年5月1日現在)
- ④ 校区小学校・中学校
 - ・加治木小学校 男子141人 女子129人 合計 270人
 - ・加治木中学校 男子326人 女子320人 合計 646人
- ⑤ 消防団 加治木分団 団員 28人
- ⑥ 警 察 加治木中央交番
- ⑦ 校区内の主要施設
 - ・加治木小学校
 - ・保育園施設
 - ・子育て支援センター
 - ・龍門滝温泉
 - ・娯楽施設
 - ・給食センター
 - ・医療機関
 - ・公園
 - ・郵便局

(2) 交通

- ① 鉄道: 日豊本線 錦江駅
- ② バス: 鹿児島交通 始良市循環バス
- ③ 主要道路: 国道10号線 国道10号バイパス
県道42号線 (川内加治木線)
市道 (木田本通線)

(3) 公共施設

- ① 始良市施設: 市立学校給食センター 上水道中央管理場
- ② 公民館等: 加治木小校区公民館 木田自興館 錦江集会所
各自治会公民館
- ③ 郵便局: 木田簡易郵便局
- ④ 警察: 始良警察署加治木中央交番
- ⑤ 公園: せんとり公園 小鳥公園 春日公園 赤坂公園
中央公園 実窓寺公園 古川公園 原ノ門公園

(4) 医療施設・介護施設

- ① 医療施設： 加治木温泉病院 松下亮治内科 鬼丸小児科
ともし歯科 四本皮膚科
- ② 薬局： ふれんど薬局 新生薬局
- ③ 介護施設： 加治木望岳園 ヴィラ福洋 シルバータウン加治木

(5) 保育園・学校関係等

- ① 保育園： かじの木保育園 高井田保育園 せんとり保育園
- ② 学校： 加治木小学校
- ③ 児童クラブ： 加治木児童クラブ 高井田児童クラブ

(6) 郷土芸能：

午踊り（鹿児島神宮毎年旧暦 1 月 18 日に近い初午の日）
お田植え祭り（鹿児島神宮毎年 6 月第 2 日曜日）
太鼓踊り（加治木地区毎年 8 月 16 日）

(7) 神社・寺院等

- ① 神社： 春日神社 隈姫神社 伊勢神社 小鳥神社 蛭の神
- ② 寺院： 転法輪寺 古神道仙法教 天理教始良分協会

(8) 発電所： 九州電力宇曾木発電所（宇曾の木川）

(9) 名所・旧跡

- ①名所： 龍門滝（滝観音） 宇曾の木滝 木田用水路 かみじが滝
- ②旧跡等： 実窓寺跡 市ノ頭遺跡跡 龍門司坂 岩屋寺跡 鴻巣園跡
薬師如来像 弥勒窯跡 後藤塚 瀬貫切貫（木田用水路）
- ③田の神さあー： 新中公民館（2 体） 西ノ原公民館 高井田公民館
隈姫神社前（県文化財指定） 弥勒公民館
- ④亀墓： 島津都美墓（長年寺跡） 江夏友賢墓 伊集院忠真墓

(10) 温泉

龍門滝温泉 加治木温泉センター ふれあい温泉

(11) 自治会のユニークな行事

- ① 中福良：もぐら打ち 高井田：田の神さあー 鬼火焚き
- ② 木田三地区： 夏祭り
- ③ 六月灯： 小鳥神社 伊勢神社 隈姫神社 弥勒菩薩堂
- ④ 避難訓練： 弥勒自治会

(12) 校区内におけるいきいきサロンと 敬老会

- ① 校区内におけるいきいきサロン（平成 28 年度）
 - 新生町サロンひまわり（新生町）
 - みろくいきいきサロン（弥勒）
 - 新中サロン「健康体操」（新中）
 - サロンやまとなでしこ（楠園）
 - 上木田はつらつ健康クラブ（上木田）
 - はつらつサロン小鳥（小鳥）
- ② 校区内における敬老会のある自治会
 - 弥勒
 - 上木田
 - 高井田

(13) 校区内の消防団

○加治木西部消防団（木田 2・3 地区）

○錦江消防団（木田 1 地区）

4. 加治木校区の特色

(平成24年度始良市コミュニティビジョン策定事業ワークショップより抜粋)
(ワークショップ実施 平成24年12月～平成25年2月)

(1) ふるさと(加治木校区)の自慢

①自然

自然に恵まれている
山里・田園風景が残っている
(山・川・滝)
空気が良い 静か
温泉が沸く
ホテルが飛び交う

③教育熱心

先生方が一生懸命取り組んでいる
学校に対して協力的である
PTA役員が積極的に取り組んでいる

⑤伝統文化・行事

蜘蛛合戦への取り組み(加治木小)
太鼓踊り(8月16日)
池田助右衛門祭(4月11日)
初午祭(鹿児島神宮)
お田植え祭り(鹿児島神宮)

⑦交通関係

県都鹿児島市に近い
国道10号バイパス

鉄道(JR日豊線 錦江駅)
県道42号線(空港道路)
九州自動車道加治木ジャンクションに近い
空港に近い

②絆・人・人情

人が良い 仲が良い
近所つきあい

④名所旧跡

誇れる史跡名所が多い
田の神 神社
亀墓 木田用水路

⑥医療・介護関係

医院
薬局
老人介護施設

⑧商業施設

コンビニが多い
大型店舗(スーパー)
に近い

(2) 課題の洗い出し

①環境・自然

更なる山野・河川などの整備美化
自然と親しむ機会・場所の検討
ゴミ収集の在り方の検討
不法投棄 ゴミ出しマナー
ゴミ減量 リサイクル意識

一斉美化作業への取組

③安全・安心な生活

犯罪のない社会を
交通量の増加（交通事故防止）
災害時への対応
地震・台風・大雨・火山爆発
不審者対策
うそ電話への対応
インフラの改善

⑤コミュニティ（人間関係）

コミュニケーション・信頼・絆の深化
自治会未加入者への対応
地域行事への参加推進
若年・中年層への喚起
隣近所への声掛け
自助・共助・公助

②教育・文化

園児・児童・生徒の減少
地域の子どもは地域で
家庭教育 社会教育
学校教育への関心・協力
あいさつ運動

（子どもへの声かけ）

子育て環境の整備

学校と地域の連携（ssvc）

（スクール・サポート・ボランティア・コーディネーター）

子ども見守り隊

④福祉・社会弱者への対応

高齢化・少子化社会への対応
独居老人や認知症者への対応
子育てしやすい社会へ



八重桜

5. 課題整理とその対応の在り方

(1) 環境・自然

リサイクル・ゴミの減少についての研修

自治会未加入者や不法投棄者への対応
収集場所の再検討
業者収集後の点検

(2) 教育・文化

明るいまいさつ運動
の標語

声かけおじさん・おばさん
地域の子供は地域で
学校と地域の連携
(SSVC)

社会教育の充実
自治会・コミュ協との連携
市子育て条例の周知徹底

(3) 安全・安心な生活

交通事故防止
法令講習会の実施
災害対策（地震・台風・大雨・火山爆発
原子力発電所事故）
避難場所・避難経路の各人
災害対策についての講習会の実施
避難訓練
防犯対策
防犯対策についての講習会の実施
地域住民を見守るシステム
食生活の改善
食事改善委員との連携
食生活講座の開催

(5) コミュニティ・人間関係

自治会未加入者への対応
孤立社会への対応
自治会やコミュニティ協議会等の活動の情報提供
若者や中高年者の行事等への参加
諸活動や行事の在り方の検討
役員になり手がいない・・・役員選出の在り方の検討

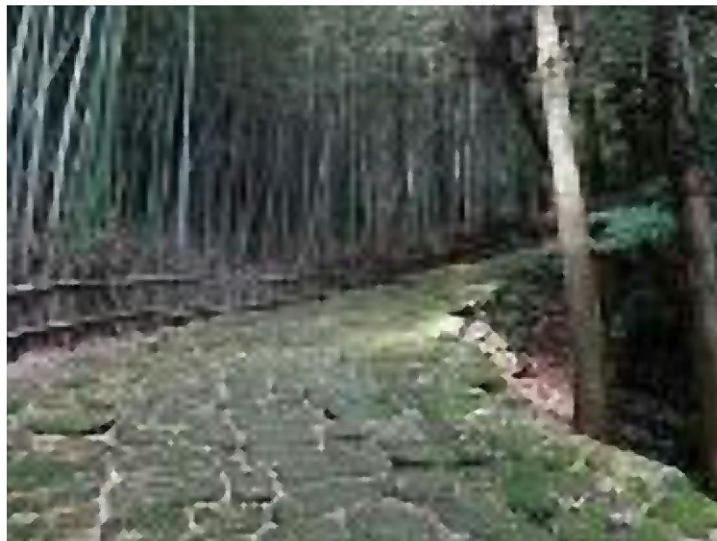
(4) 福祉関係

高齢化社会への対応
独居老人等の把握

民生委員との連携
いきいきサロンの推進
日常の声掛け
人間関係づくり
認知症者への対応
講座の開催
敬老会の推進
社会弱者への対応

6. 20年後の夢を描こう（地域・全体）（順不同）

- 若々しく元気でみんなと話ができ進んで何でも参加する街に
- 病院が近くにあり、交通が便利、買い物も便利で美しい町並みに
- 隣近所が楽しく支える暮らし
- 自然豊で安全安心な加治木校区であってほしい
- 地区の子供たちが増え、高齢者の方たちと楽しく行事ができたらいいな
- 子供たちがいっぱい住んでいる町、そして高齢者と一緒に住めたらいいな
- 思いやりがあり、協力しあい、明るく活発な校区になってほしい
- 子供たちの笑い声の聞こえる元気な街に
- 安心して避難できる高台を作って頂きたい
- 相互に信頼し合い、絆の強い地域や人であってほしい
- 自然が残り、校区民が住みやすい明るく、きれいな街
- 子供たちが野山や川に行けるような自然にしてほしい
- 郷土への誇りが持てるようにしてほしい
- 子供の多い地域になってほしい
- 明るく楽しい元気な地域
- 犯罪などもなく、安全に暮らせる街であってほしい
- みんなが安心して暮らせる街に
- 人があふれる楽しい地域に



龍門司坂（たつもんじさか）

Ⅱ 加治木校区コミュニティ協議会がめざす将来像

「校区コミュニティ協議会」（以下「協議会」）は、平成２７年（２０１５年）に、平成の大合併で成立した始良市全体（旧加治木町・旧始良町・旧蒲生町）としての統一した地域の組織体として組織されたものです。

この協議会は、校区内の自治会をはじめとする地域組織や団体の枠を越えて一体となり、住民のコミュニティの深化を図るとともに、様々な共通の課題を解決し、明るいまちづくりを目指して組織されました。

旧加治木町では、この「協議会」のような組織として、「加治木小校区公民館（条例公民館）」がありましたが、この組織は平成２７年３月に解散し、６年間の活動を終了し、新たに「加治木校区コミュニティ協議会」として出発し、活動を始めることにしました。

そこで、加治木校区コミュニティ協議会として、今まで以上に地域住民が一体となった明るいまちづくりを推進するために、中・長期的に見た「まちづくりプラン（校区振興計画）」を作成することにしました。

なお、このプラン（計画）が活力ある未来のまちづくりの指針となるよう組織及び活動内容等を住民全員に理解していただき、共助の精神で取り組んでいただくことを期待します。どうかよろしくお願いいたします。



コガネクモ

1. 加治木校区コミュニティ協議会の現状

- (1) 設立年月日 平成27年4月9日設立総会にて
(加治木小校区公民館から移行の形で)

- (2) 構成団体 校区内自治会、消防団、太鼓踊り保存会、市スポーツ推進員、小中学校PTA、小学校、午踊り保存会、民生委員・児童委員、スポーツ少年団、木田土地改良区

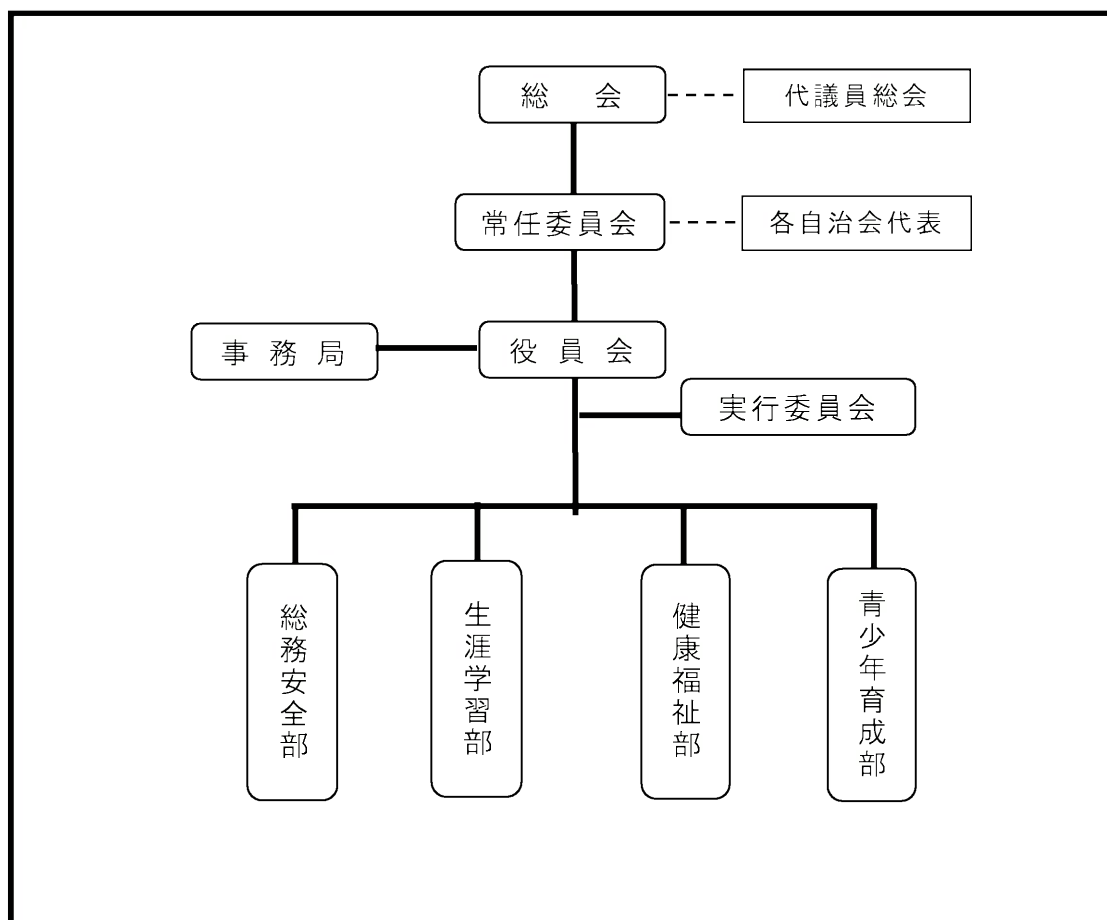
- (3) 運営上の現状

加治木校区コミュニティ協議会は里山文化を残す生活環境の適度に整った所であります。しかしながら、今日の社会変化の波を被り、少子高齢化率も著しく高くなってきております。それらの影響を受けて、生活環境の困難さも増し、安住の場所も失われつつあります。私たちの周辺においても、独居老人や廃屋・休耕地なども目に付くようになりました。このことは、防犯・防災や環境美化・衛生等の維持、あるいは伝統行事の継承、伝承が喫緊の課題となってきました。

こうした状況から、校区コミュニティ協議会活動は、校区自治会員における運動会/グラウンド・ゴルフ大会/文化祭での校区民の融合、また、保存会と協力して午踊り・太鼓踊り・お田植祭等の伝統文化行事を取り込むことによる全自治会毎の交流を向上させています。

しかし、前述したように、社会構造の変化や住民意識の低下から自治会員の減少傾向、会員の高齢に伴う校区負担金の減少、交付金の減少等により校区コミュニティ活動の運営に多少なりとも支障が生じてきております。も厳しさを増してきております。これらを踏まえて、現状の組織の検証を行い、まちづくりプランが有効性をもつことができるような機能整備が必要と思われれます。

① 組 織 図



運動会

② 現在の加治木校区コミュニティ協議会 活動方針

【活動方針】

本協議会の活動方針として3つの目標を掲げ活動します。

ア. 健康でいきいきと暮らせて共に支えあうまちづくり

イ. 絆の強い地域や人づくり

ウ. 安全安心の地域づくり

【活動内容】

部 会 名	事 業 内 容	活 動 内 容
総務安全部	地域情報事業	・ 地域課題の協議及び収益事業の検討 ・ 主要行事の企画及び参加促進 ・ 広報活動の活性化（協議会だより） ・ 自治会員親善グラウンドゴルフ大会
	防犯・防災事業	・ 災害に強い地域づくりのための防災研修の実施 ・ 防犯活動及び防災支援活動の検討（校区防災訓練等） ・ 子供見守りへの支援
	交通安全事業	・ 交通安全運動、街頭指導への支援 ・ 法令講習会の実施検討
	環境美化事業	・ 環境美化活動の支援 ・ 公民館、体育館清掃の実施
生涯学習部	文化活動事業	・ 校区文化祭 ・ 史跡講演会
	生涯学習事業	・ 生涯学習講座（成人学級）
健康福祉部	スポーツ事業	・ スポーツレクリエーション大会への参加促進 校区運動会 親子ウォーキング大会
	健康づくり事業	・ 料理教室
	子育て支援事業	・ 子育て支援活動の展開
	高齢者の生きがいづくり事業	・ 高齢者や障害を持つ人たちへの支援活動
青少年育成部	青少年健全育成事業	・ 青少年健全育成のための体験活動 日帰り研修 親善子供レクリエーション大会 親子料理教室 ・ あいさつ運動の支援

③平成28年度事業実績

月	日	曜	行事名	日	曜	総務安全部	日	曜	生涯学習部	日	曜	健康福祉部	日	曜	青少年育成部
3	24	木	H27総会												
	7	木	第1回役員会												
4	7	木	第1回専門部全体会												
	28	木	第1回常任委員会												
5	9	月	運動会実行委員会							9	月	運動会実行委員会			
	15	日	第2回校区運動会							15	日	校区運動会			
	6	9	成人学級（防災研修）	9	木	成人学級（防災）									
6	16	木	第2回役員会												
7	7	木	第2回常任委員会												
8	5	金	日帰り研修									5	金	日帰り研修	
	8	木	第3回役員会												
	15	木	第3回常任委員会												
9	17	土	親善子供レクリエーション大会										17	土	親善レクリエーション大会
	24	土	成人学級（手芸教室）				24	土	成人学級						
	29	木	第4回役員会												
	29	木	第2回専門部全体会												
10	6	木	第2回校区文化祭実行委員会				6	木	第2回校区文化祭実行委員会						
	8	土	成人学級（園芸教室）				8	土	成人学級						
	29	土	第2回校区文化祭				29	土	第2回校区文化祭						
11	6	日	親子ウォーキング大会							6	日	親子ウォーキング大会			
	13	日	自治会親善GG大会	13	日	自治会親善GG大会									
12	3	土	親子料理教室										3	土	親子料理教室
	11	日	体育館・公民館清掃	11	日	体育館・公民館清掃									
1	12	木	第5回役員会												
	12	木	第3回専門部全体会												
	19	木	第4回常任委員会												
2	25	土	料理教室							25	土	料理教室			
3	4	土	史跡講演会				4	土	史跡講演会						
	15	水	第5回常任委員会												
	16	木	監査												
	23	木	H28年度総会												

④専門部の主な取組の現状と課題

＊《専門部毎》

ア 総務安全部会

現在、防災への取組として、成人学級で火災・地震時等の対応の研修を行っています。

また、自治会の親睦として自治会親善グラウンド・ゴルフ大会の実施しております。

[課題]

- 交通安全事業/スクールガードの設置/交通安全運動や街頭指導への支援
- 未加入者の自治会入会対策
- 地域情報事業/地域課題の協議及び収益事業の検討/ネットで活動状況
- 広報紙の発行/主要行事の企画及び参加促進/広報活動の活性化
- 環境美化作業/環境美化作業の支援（加治木地区一斉美化作業）
- 防犯/防災事業/災害に強い地域づくりのための防災研修の実施（各自治会の自主防災事業促進）

自主防災について

- ①各自治会の避難場所策定(行政と調整しながら)。
- ②各自治会の避難訓練の講演及び訓練の推奨を行う。
- ③各自治会に火の用心/見回り等の推奨活動を行う。
- ④各自治会はP T A/育成会/子供会等とも協議して声掛けおじさんを設ける。

※校区民の融和対策

※収益事業の検討

イ 生涯学習部会

文化活動の一環として年一回、校区文化祭を実施し伝統文化の継承発展や文芸作品等を一同に展示し発表の場の提供をしています。

史跡講演会を実施し郷土の歴史を学んでいます。

[課題]

- 文化活動事業・毎年恒例の文化祭の活性化
- 生涯学習事業・生涯学習講座・健康体操やサロンによる生きがいづくり

ウ 健康福祉部会

校区運動会を毎年5月に健康づくりやレクリエーションとして実施し、校区民の親睦や絆を深めよう実施している。

また冬場に健康づくりの一環として、料理教室を開催し、食の大切さや楽しさを味わうよう実施している。

[課題]

- スポーツ事業・スポーツレクリエーション大会への参加促進
 - ・恒例の校区運動会への参加者増加策
 - ・運動会への自治会の参加促進策
- 健康づくり
 - ・食育等の研修

エ 青少年育成部会

日帰り研修では異学年との交流や、文化施設等への研修により見識見聞を広め楽しい一日を過ごしている。

また、親子料理教室を開催し、家族で一緒に料理し、一緒に食事を採っている。

[課題]

- 青少年健全育成事業・青少年健全育成のための体験活動
 - ・日帰り研修、親子親善レクリエーション大会、親子料理教室
- あいさつ運動の支援
 - ・異年齢集団での宿泊学習研修の計画

※部の根幹・・・P T Aを母体とした青少年育成事業・健全育成の活動

①学外研修事業(日帰り研修・親子キャンプ・農産物生産の体験学習)

②自然の学習事業(四季の動植物の観賞)



歴史講演会

2. スローガン（キャッチフレーズ）

（校区コミュニティ協議会や校区全体のまちづくりの理念）

誰もが生き甲斐を感じる校区をめざして、校区民が一体
となったまちづくり

（自助・共助・公助をめざす加治木校区）

- 健康でいきいきと暮らせて共に支え合うまちづくり
- 絆の強い地域や人づくり
- 安全安心の地域づくり

3. まちづくりの方針

- （１）自然環境・・・自然に誇りを持ち、自然と共に生きる校区を目指して
 - 里山の保全
 - ホタルや川魚の保護
 - 美化活動の推進 川を汚さない運動
- （２）地域づくり・・・笑顔に満ち、潤いと活力に満ちた校区を目指して
 - 環境美化活動 ゴミ拾い 花いっぱい活動 公園の美化
 - 後継者育成 地域行事（自治会・校区コミュニティ協議会）への参加要請,教職員・学校PTAとの連携
 - 生活ルールを守る啓発活動 ゴミ出し 犬の散歩 公園での遊び方 交通規則の遵守
 - 地域活性化事業推進
 - 郷土芸能の関心高揚 太鼓踊り お田植え祭り 午踊り保存会との連携
- （３）地域・人のわ・・・人の和・輪・我・吾を目指して
 - 自治会未加入者等への加入促進活動
 - 地域行事（自治会・校区コミュニティ協議会）への参加要請
 - 各種団体育成事業 サロン 子ども会 敬老会
 - 地域・人の和を図る行事の計画

- 地域の様子を知らせる広報の充実 コミュ協だより「木田の里」発行
- 生涯学習（成人）講座の充実 史跡めぐり 料理教室 園芸教室
- 文化・体育関係の行事の充実 運動会 文化祭 グラウンド・ゴルフ大会
- 挨拶、声かけ運動の推進
- （４）子育て・・・地域の子どもは地域で
 - 始良市子育て条例の周知徹底
 - ＳＳＶＣ（スクール サポート ボランティア コーディネーター）への協力依頼
 - スクールガードの組織
 - 加治木中学校「声かけおじさん・声かけおばさん」との連携
 - 加治木小学校スクールゾーン対策委員会との連携
 - 県民が育てる教育週間（１１／１～１１／７）への積極的参加
 - 教育講演会（校区コミュニティ協議会・加治木小学校ＰＴＡ共催）への参加
 - 自治会子ども会の育成
 - 校区コミュニティ協議会青少年育成部主催行事の育成
- （５）健康、安心、安全・・・安らぎのある、安心で安全な
 - みんなが元気で、暮らしやすい
 - 生涯学習（成人）講座の充実 防火防災 詐欺電話等防止 健康講座
 - 避難訓練 自治会との連携
- （６）他機関・団体との連携
 - 始良市との連携
 - 市社会福祉協議会との連携
 - 木田地区土地改良区との連携
 - 他校区コミュニティ協議会との連携
 - 加治木小学校・中学校ＰＴＡや親父の会等との連携
 - 警察署・消防団との連携
 - 各自治会敬老会・サロン等との連携
 - ホテル保存会（県・加治木地区）との連携 ホテルを見る夕べ
ホテルの放流
 - 加治木町まちづくりの会との連携

4. 加治木校区コミュニティ協議会の新体制づくり

今日の私たちの暮らしも、生活様式の変化や核家族化の浸透等によりコミュニケーションの希薄化が強まり他の人々に関与せず無関心になりつつあります。個人重視の意識の高まりにも見えますが、ややもすると、利己主義的でもあります。

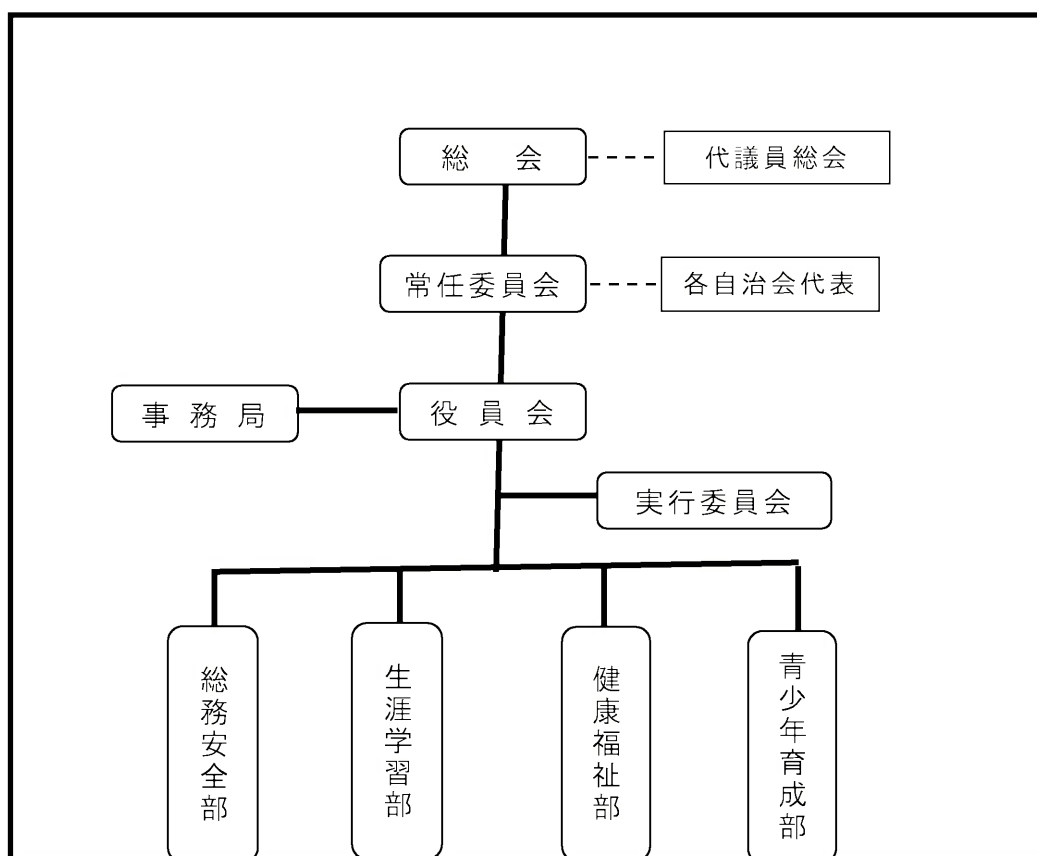
私たちは、人間社会において一人で存在することはあり得ないわけです。衣・食・住を見渡してみれば色々な人たちのおかげで、私たちは何の不便さもなく暮らしていけます。今こそ、防災・防犯等において校区の身近な居住者としてお互いの安心安全を高め幸せな暮らしが出来るよう考えなければなりません。

私たちが住んでいる日本は世界の中でも、災害に遭う確率の高い国であります。

近年たて続けに起きている地震災害も対岸の火事ではありえません。私たち鹿児島県にとって心配する南海海溝型(プレート)地震発生も 200～400 年に 1 回発生する可能性も指摘されています。時間的推移から南海トラフ地震発生が予測されています。その他、降雨災害、台風被害・社会的事件など身近な事も考えられます。これら、直面した時にすべてが行政のみで安全を確保しえないことは近年の地震災害や事件事例を見ても明らかであります。

こうした事から日常の校区活動を通して、細かな状況把握や連絡体制が整うようなまちづくりプランの組織も考えていかなければなりません。

(1) 新 組 織 図 (案)



(2) 専門部ごとの活動基本方針（案）

ア【活動方針】

本協議会の活動方針として3つの目標を掲げ活動します。

- ・健康でいきいきと暮らせて共に支えあうまちづくり
- ・絆の強い地域や人づくり
- ・安全安心の地域づくり

イ【活動内容】

部 会 名	事 業 内 容	活 動 内 容
総務安全部	地域情報事業	・地域課題の協議及び収益事業の検討 ・地域資源の活用 ・主要行事の企画及び参加促進 ・広報活動の活性化（協議会だより） ・自治会への加入促進
	防犯・防災事業	・災害に強い地域づくりのための防災研修の実施 ・防犯活動及び防災支援活動の検討（校区防災訓練等）
	交通安全事業	・交通安全運動、街頭指導への支援 ・法令講習会の実施検討
	環境美化事業	・環境美化活動の支援 ・公民館、体育館清掃の実施
	自治会運営連携事業	・自治会親睦事業 ・自治会事業報告会議開催 ・自治会長親睦 GG 大会 ・自治会加入推進事業 ・自治会規約等情報交換 ・郷土芸能保存会との連携
生涯学習部	文化活動事業	・校区文化祭 ・史跡講演会
	生涯学習事業	・生涯学習講座（成人学級）
健康福祉部	スポーツ事業	・校区運動会 ・親子ウォーキング大会
	健康づくり事業	・料理教室 ・自治会員親善グラウンド・ゴルフ大会
	高齢者の生きがいづくり事業	・高齢者や障害を持つ人たちへの支援活動 ・社会福祉協議会やいきいきサロンとの連携

青少年育成部	青少年健全育成事業	・ 青少年健全育成のための体験活動 ・ スポーツレクリエーション大会への参加促進 ・ 日帰り研修 ・ 親子料理教室 ・ 立哨、登校あいさつ運動の支援 ・ 地域行事、学校行事への双方支援 ・ 中学校「ハートの日」への協力 ・ 加治木小学校オッハー運動への協力 ・ S S V Cの活用（地域と学校の結びつけ）
	子育て支援事業	・ 子育て支援活動の展開



お田植祭

(3)各部の事業

[総務安全部]

○スローガン 絆・わ・コミュニケーションの深化をめざして 自治会と連携し合った地域づくりを目指して
○基本方針 自治会や他の構成団体との連携を深めるとともに、コミュニティ協議会をまとめていき、校区コミュニティ協議会の設立の目的を達成すべく、まさに中心としての機能を発揮するようにする。 自治会と一体となったコミュニティ協議会を目指して、校区内15自治会長と連携し合った活動を進め、住民が住みやすい校区づくりに努める。
○事業内容 ・地域課題の把握 ・収益事業の検討 ・自治会や他の構成団体との連携強化 自治会長や団体の長などを組織の中に位置づける (運営委員会・実行委員会) (構成団体等の行事や活動への参加など) ・校区民への情報提供(校区コミュニティ協議会だより) ・地域資源の活用 ・郷土芸能保存会との連携 (午踊り・お田植え祭・太鼓踊り) ・生活環境(環境美化活動)の浄化 ・行事の企画運営参加促進活動 ・自治会加入について校区としての取り組み検討 ・各自治会ごとの連携強化 各自治会の特色ある活動や行事等紹介
○活動内容 ・コミュニティ協議会だよりの発行 ・校区文化祭での紹介(お田植え祭・午踊り・太鼓踊り) ・加治木小学校体育館等清掃(P T Aやスポーツ小年団との連携) ・始良市全体清掃への参加(校区としての取り組み)

[生涯学習部]

○スローガン

校区民が生き甲斐を感じる校区づくりをめざして

○基本方針

子どもから高齢者全ての校区民が、お互いに助け合い、学習し合い、自分の生活に生き甲斐を感じる毎日を過ごせるようにする。

○事業内容

- ・文化活動事業
- ・生涯学習事業
- ・社会講座の充実

○活動内容

- ・校区文化祭（舞台発表・展示発表）の実施
 - ・小学校PTA事業部との連携
 - ・成人学級講座の実施
- 手芸教室・園芸教室・歴史講演会



校区文化祭

[健康福祉部]

○スローガン 校区民が健康で安心して住める校区づくりをめざして
○基本方針 子供から高齢者全ての校区民が、健康や福祉、安全に大いに関心を持ち、健康や福祉、さらには、安全に関する講座や行事、活動の積極的に参加するような雰囲気づくりに努める。
○事業内容 ・健康づくりコーディネーターとの連携 ・地域住民の健康づくり事業 ・高齢者・障がい者福祉関係 - 市社会福祉協議会やいきいきサロンとの連携 ・健康・福祉関連の講座（市との連携） ・スポーツ関係事業（スポーツ推進委員との連携）
○活動内容 ・成人学級講座の実施 - 料理/健康/福祉 ・スポーツ大会の実施 （スポーツ推進委員との連携） - 校区運動会・自治会親善グラウンド・ゴルフ大会・ニュースポーツ大会 ・PTA厚生部と連携したレクリエーション大会の開催

[青少年育成部]

○スローガン

将来の校区を担う子供の育成をめざして
(地域の子どもは地域で)

○基本方針

平成23年度始良市制定の「始良市子育て基本条例」に基づき、「地域の子供は地域で」のスローガンの下、保育園/幼稚園や学校との連携を深るとともに、校区民全体で、将来を担う子どもの育成に努める。

○事業内容

- ・子育て支援事業
- ・青少年育成事業
- ・幼/保/小/中学校との連携
- ・SSVCの活用（地域と学校の結び付け）
- ・各自治会における子供会の充実育成
各自治会育成会との連携
- ・地域行事、学校行事への双方支援、参加協力依頼
- ・子供見守りへの支援（連休・夏休み等街頭補導等）
- ・青少年健全育成のための体験活動（相撲大会等）
- ・立哨、登校あいさつ運動
加治木小学校オッハー運動への協力
加治木中学校「ハートの日」への協力
加治木中学校「声掛けおじさん・声掛けおばさん」との連携

○活動内容

- ・スポーツレクリエーション大会への参加促進
- ・親子料理教室
- ・夏休み日帰り研修
- ・子供見守り隊の設置

Ⅲ 計画の推進に向けて

1. 推 進 体 制

(1) 推進状態の管理確認

この計画が画餅に終わらないよう、校区コミュニティ協議会が中心となって、この加治木校区まちづくりプラン（加治木校区振興計画）の方針に添った事業や活動が推進されているかその進捗状況を逐次確認していく。

(2) 計画の周知徹底

目的に添った事業や活動を実施するために、年度初めに年間計画を知らせ、計画の段階で専門部を中心に入念に検討立案し、その事業や活動に参加協力してもらう各種団体や校区民に周知徹底していく。

(3) 趣旨に添った事業・活動の実施の推進

趣旨に添った事業・活動を実施するために、自治会回覧などで事前に周知徹底し、多くの参加者を促すようにする。

また、専門部員を中心に事前の準備を入念に行い、事業や活動の実施中は、目的に添った展開がなされているか確認や点検を随時行っていく。

事業や活動が終了したら、反省会を開いたり、参加者の感想や意見を取り入れるためアンケートなどを取り、次回の事業や活動の更なる充実を図るようにする。また、参加していただけなかった校区民等には、コミュニティ協議会だより「木田の里」などで、事業や活動の状況を報告し、次回の事業や活動に参加してもらうようにする。

2. 推 進 に 向 け て

以上、加治木校区の現状や課題を基に、「誰もが生き甲斐を感じる校区をめざして、校区民が一体となったまちづくり（自助・共助・公助をめざす加治木校区）」の実現を目指した加治木校区づくりを単なる絵に描いたプランに終わらせないためにも、校区民への周知徹底や校区コミュニティ協議会として今後取り組むべきこと、更には校区民一人一人の理解や協力が必要になってきます。

- 1 今回策定した「加治木校区まちづくりプラン（校区振興計画）」を校区民一人一人に周知徹底し、理解や協力を深めるようにする。
- 2 計画が画餅にならないよう、実現可能な組織作りを現状に照らし合わせながら検討する。そのため校区コミュニティ協議会を中心に、協議会を構成する諸団体がそれぞれの持ち味を生かしながら、十分な連携を取り合い積極的に参画、協働するよう計画の一層の充実を図る
- 3 計画の推進に当たっては、多くの校区民の意見を参考にし、予算のことも念頭に置きながら、校区民一人一人が積極的に、自主的に参加する魅力ある計画づくりに努める。そのために、地域内の人的資源（人材の適材適所）、特に若い力の掘り起こしに努める。
- 4 計画は進捗状況を常に把握し、必要に応じて見直しを図り、行政や関係団体との連携を取りながら、一層充実した計画を検討していく。



運 動 会

Ⅳ【資料編】

1. 加治木校区の特色ある風景・史跡・伝統芸能等

1 瀬貫碑



・木田平野は、水に乏しく少しの日照りで苦しむ農民の姿を残念に思い、池田助右衛門はうそぬき滝の上より西別府の水を引けば、木田の平野に灌水し得ると考え、有志に之を説き、水路開墾を加治木領主に願い出た。萬治2年(1659)8月27日、許可があり、直ちに工事に着手した。

当初は村民もふるって工事に協力したが、岩石が大変堅く工事は容易にすすまなかった。従事者は次第に減り、さらに工費がかさみ異論続出、やがて助右衛門一人となった。折角の功業も停止するように思われたが、助右衛門は屈せず、苦心惨憺私費を投じ自ら掘削に努力した。真夜中には滝壺の水にうたれて成功を祈願したが、これを見た人々は狂気の助右衛門とあざ笑った。

陽気が良くなると、また掘削を始めた。精神一到何事か成らざらん。助右衛門の熱意は3年7ヶ月を経て寛文3年(1663)3月18日、120間の隧道を貫通して、河水は滝と成って落下した。村民は驚喜し、協力して下流に水路を開き新田を開墾して、木田6千石の水田となった。

領主忠朗は(加治木島津家初代領主)深く之を賞し、禄50石を与えた。助右衛門は、そのうち1〇石を萬年山融峯寺(ゆうほうじ)に寄付し、夫婦死後の菩提料にあてたが、その後、子や孫も判明していない。功名亦将(こうみよう またまさ)に消えてなくなる。ここに於いて木田の人稻恒重節翁、痛くこのことに悲しみ、明治44年3月23日、建碑祭典の事を木田評議員会に提案し、ただちに全員が賛同。義捐金を募り建碑に着手し、同年11月竣工、11日、建碑式と祭典を行なう。それ以来、毎年祭典を執り行っている。

(隈姫神社境内)

2 伊集院源次郎墓(いじゅういん げんじろうはか)



・安土・桃山時代、忠眞の父忠棟は都城庄内 8 万石の領主で、石田三成と親しくして、島津藩内で勢力を拡大する傾向を見せた。このことに不安を感じた島津家久（島津義弘の後継者 第 18 代太守）は、慶長 4 年（1599）、京都伏見で忠棟を殺害した。この事件が原因で伊集院忠眞らは、島津氏に対して乱を起こし、約 9 か月の激戦の後、徳川家康の仲介で鎮静した。降伏した忠眞は、額娃一万石を封ぜられたのち、帖佐二万石に移ったが、なお、島津家久に対して反抗的であったため、慶長 7 年（1602）、家久上洛に随行の途中、日向国野尻で殺害された。忠眞の遺骸は帖佐の天福寺に葬る予定で加治木まで運んできたが、実窓寺に埋葬されたという。なおこの亀趺墓は、元禄 8 年（1695）になり木田杉森門の名頭・新右衛門が建立したものである。（楠園・杉森宅）

3 江夏友賢墓(こうか ゆけんはか)



・江夏友賢は 1538 年、明国福建省江夏郡に生まれた。出身地から「江夏」を名乗り、または漢民族の先祖である「黄帝」の子孫として「黄友賢」とも名のった。幼い頃より朱子学や易学を学び、23 歳で日本に渡来した。はじめ、京都で易を行なっていたが、やがて戦乱をさけ薩摩に移った。薩摩では薩南学派の高僧一翁和尚と親交を重ねたといわれている。

天正 10 年（1582）島津義弘から八代城へ呼び出され、易を行なったことから家来となり、朝鮮の役にも従軍した。友賢は、この戦いで認められて、島津義弘に従い上京した時、豊臣秀吉から家来にしたいとの申し出もあったが「臣 二君に仕うるは深く恥じる所となす」と断った。またこの話は都で評判となり朝廷から「先生」の称号と、占いに使う道具を拝領した。

友賢は、島津義弘や家康に信頼され、加治木屋形や鹿児島（鶴丸）城を築く際の占いや縄張り（城や城下町の設計）なども行った。73 歳で亡くなり、実窓寺に葬られた。

黄翁環溪先生 江夏氏墓
墓碑

慶長十五年（1610）庚戌（かのえいぬ）七月二十

（楠園公民館 隣）

4 田の神(西の原、弥勒、新中1・2、桃木野)



・鹿児島県本土と宮崎の諸県地方では、水田のほとりに石造りの田の神像が見られる。一般にこれをタノカンサーと呼び、江戸時代の薩摩藩領内で造られた独自の文化である。この石像の総数は小形の物も入れると2000体を超すと言われている。現在最も古い田の神石像は、さつま町鶴

田紫尾の物で、宝永2年(1705)の仏像型である。

田の神石像の一般的な形は、甕の底に敷くシキと言うワラのスノコを頭にかぶり、手にメシゲ(しゃもじ)、お碗、スリコギ等を持ち、田仕事姿の立像である。顔は笑顔または翁(おきな)の顔が多く、これは神社で行われていた田の神舞の姿を表現していると言われている。

さらに古い田の神像は、薩摩側では、大口・地藏等の仏像型、大隅・日向側では衣冠束帯に笏(しゃく)をもつ神像型で、村々をめぐる僧や神舞を舞う神職姿の田の神像となり、さらに田の神舞の像に発展したものと考えられている。

このように田の神石像は、南九州で独自に発展した庶民性豊かな民俗文化財と言われ、加治木校区にも様々な田の神石像があるので訪ねてみる価値がある。

5 上木田の田の神



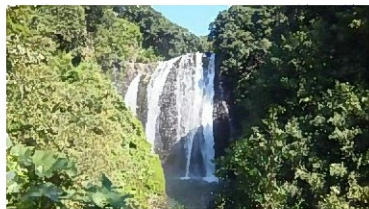
・高貴な面差しが聖徳太子にもにて。

隈姫神社の前にある、桃木野石を用いた高さ65cmの座像である。鼻を少し損じているが穏やかな表情で、ヒモみたいな物を背中に長く垂らした冠むりをかぶり、両袖は左右に跳ね上がっている。両手を前で合わせ輪を作っているが、この中にしゃくを差し入れたものである。明和4年(1767)

の刻銘があり、神像型座像の田の神の中では、最も古く県指定文化財である。

(上木田 隈姫神社前)

6 龍門滝(りゅうもんたき)



・雄大な滝を望む展望所や遊歩道などがある。ゆっくり散策してみては。

加治木駅から約2.5キロを隔て、網掛川の上流に位置し、小山田川が旧加治木本城をめぐる、この滝に注いでいる。高さ約40m・巾約39mで、昔唐人がこれを賞して「漢

土の龍門の滝を見るが如し」といったというので、この名が付いたと言われている。

「日本の滝百選」に選ばれている名滝で、滝勢壮大、奇観目を驚かすものがある。滝水の前面100mばかりの所に石座像が置かれてあり、これを滝見観音と呼んで

おり、加治木6代久微の詩が刻んである。

島津家久は、この滝を次のように詠んでいる。

「 往くさ来るさ道ゆく人も暫しとて立きかえり見る滝の白糸 」

また、高井田用水は、この滝の上の切通しが、取水口となっている。なお、この滝については、一つの伝説がある。

この辺は、昔昼なお暗いほどの大森林であったが、1人の老婆が洗濯に行っていると、大きな眼をむき出した大蛇が炎のような赤い舌を出してくるので、あまりの恐ろしさにそこに気絶してしまった。それからというもの、この滝に洗濯に行くものはいなくなったということである。

7 隈姫神社(くまひめじんしゃ)



・島津義弘夫人を偲び今もなお女性参拝客が。

島津義弘が飯野にいた頃の妻で、相良氏の娘といわれる球磨御前をまつてある。御前は相良氏が菱刈氏と組んで侵攻してきたために離別され、悲しみといきどおりの中で観音淵で亡くなられたという。義弘は御前を供養するため慶

長年間、宝現大明神と宝現寺を建立した。

(上木田)

8 木田の太鼓踊り(たいこおどり)



・民俗芸能が豊富な鹿児島では、本市の太鼓踊りは夏を代表する郷土芸能。

太鼓踊りは棒踊りとともに県内に広く分布し、特に本市の太鼓踊りはきらびやかな飾り付けや華麗な衣装・化粧をして、活発・勇壮に踊る様子が特徴である。島津義弘が文禄・慶長の役の凱旋記念として、駿河の念仏踊りを参考に

家臣に習得させたと言われている。

一方で、それより古い時代から太鼓踊りが踊られていた記録もあることから、中世から地域に根ざした芸能に、念仏踊りの鉦(かね)や朝鮮出兵などの要素が加わり、現在の太鼓に変化してきたものと考えられている。現在、市内には8団体(加治木4、蒲生3、始良1)の保存会があり、精力的に後継者育成や保存伝承に努めている。

9 鹿児島神宮お田植え祭



・毎年旧暦5月5日に、隼人町の鹿児島神宮でお田植え祭りが行われているが、この祭りも加治木とはきわめて深い因縁がある。

木田に八幡田と呼ぶ旧反別一反七畝十歩の水田があり、昔、加治木氏が隼人の国分八幡宮（現在の鹿児島神宮）に、社領としてこの田を献上したもので、ここで収穫されたお米（うんべ稲といていた）を、彦火々出見尊の御米として献上したいと言いつたが、そのこともあって、例年旧暦5月5日の鹿児島神宮もお田植え祭りには、木田の青年が奉仕することになったといわれる。

祭りの前日には、夕刻からトド組と言って御神前に献灯する大燈籠を荷い、流れ旗を押し立てて賑々しく参拝する、その晩は今の勅使殿に宿直を許され、神前近くご盛儀をお祝い申し上げ、翌朝ご齊田の御田植え奉仕を厳かに勤めた。当日は、各村からトド組の参拝がどんなに多くても、まず木田組を先頭とする慣例になっている。御田植えの儀式も木田青年によって行われ、終わったのち他の参拝者は畔から一・二株ずつ植えるというのが慣例であった。しかし、昭和35・36年頃からお田植えの儀式は、木田青年のほかに、始良郡内各町村から選抜された男女青年によって行われるようになった。

10 初午祭・鈴懸馬踊り(はつうまい・すずかけうまおどり)(木田)



・鹿児島神宮の初午祭、すなわち馬踊りの起源については二説ある。一説は、神話に発するもので、彦火々出尊が農業牧畜を推奨された御神恩に感謝するため、はじめ神馬を社地に飼育した。後世になり各社領に分配飼育された。記録がある養和元年（1181）、神宮にて飼育していた。

また一説には、天文12年（1543）に島津貴久の時代に神馬の霊夢を見たのが正月18日であったので、その日が今日の鈴懸馬の日になったとも伝えられている。

木田では、上代より八幡領として神馬を飼育し、献上米を作っていた木田郷の馬が氏子中の馬の先頭にたって参拝している。

旧暦正月十八日、鹿児島神宮の初午祭（はつうまい）に、この鈴懸馬が出るが、今では初午の日が平日の場合には、それに近い休日に行われている。昔は、一郷から二頭ずつ選んで、約二週間ばかり前からけいこをさせていたが、馬の足首に、ワラジを結びつけると、そこがモソモソするので、それを利用するので、踊り方のステップの芸を仕込むという。

この馬踊りには、紅、おしろいを美しくぬった男女が、手拭いで頬かむりし、派手な赤、桃色模様の衣裳をつけ、足には脚絆代用の白布、白たび、草履をはき、裾を

はし折って太鼓、三味線に合わせて手拍子をそろえて馬の周りをにぎやかに踊り回り、その踊りに合わせて馬も首をふりふり、後足をピョンピョンはねて踊り、馬を取りまくように歌を歌ってはやしたてた。踊りを済ませたシャンシャン馬は、派手な色彩と南方的な歌と踊りをまき散らしながら、早春の大隅路を、集落から集落へ家々の繁栄と幸せを祈りながら踊り歩く。

11 薬師如来像(やくしによらいぞう)



・心身をいやす慈愛深き、み仏像。

薬師如来とは、人々を病気から救ってくれると信仰されている仏で、作られたのは約460年前の「弘治3年(1557)8月」「川中島の戦い」「桶狭間の合戦」の頃。製作者は、岩屋寺の僧と思われる「深賢快重」、製作依頼者は、「岩屋門乙名 六郎五郎、妻、息子」と、この木像の胎内に収め

られた文書に記されていたという。

(中福良)

12 大口筋 龍門司坂(おおくちすじ たつもんじさか)



・西郷も越えた新緑の道に、幾千の歴史の足跡が。

旧大口筋の一部で、木田の高井田から小山田の毛上に通ずる石畳の坂を龍門司坂と呼ぶ。寛永12年(1635)に造られ、その100年後に石が敷かれ完成した。石は近くの樋ノ迫山から切り出され全長は1500m余りといわれるが、

現在は約500mが当時の姿で残っている。物資の往来する主幹線として薩摩の経済・文化に大いに関与した坂道で、明治10年(1877)には西郷隆盛の率いる薩摩軍がこの坂道を通って熊本へ向かっている。平成8年に文化庁より「歴史の道100選」に選定された。

13 実窓寺蹟(じっそうじかわら)



・島津義弘に殉じた歴戦の武将たち。

元和5年(1619)7月21日、島津義弘が死去した。8月16日は遺骸を鹿児島島の福昌寺に送る日であった。実窓寺は義弘の妻の菩提寺で、この日かねて約束の7人の武士は、義弘に深く恩義を感じていた家臣が割腹殉死した場所で

ある。現在は、木田本通り線の道脇に石碑が建てられており、近くには実窓寺川原記念公園が造られている。(加治木中央交番前)

14 島津都美墓(しまずとみのはか)と亀墓



・開化の名君、重豪。母への思慕が漂う。

島津都美は、加治木島津4代久門、後の4代藩主となった島津重年の夫人で、25代島津重豪の生母である。都美は垂水島津家の息女で重豪を生んですぐに死去した。

重豪は安永6年(1777)、母の33年忌にあたり墓の隣に亀趺碑を供養塔として建立した。これを通称「亀墓」と呼んでいる。
(木田西の原)

15 岩屋寺跡(いわやじあと)



・春秋を越えて祈りの念は更に深く。

この寺がいつ頃造られたか不明であるが、10世紀後半という史料もあり、県内でもきわめて古い創建と思われる。広大な境内があったと言われるが、現在でも岩崖を堀り安置している頼昌法印像や鎌倉時代の作と言われる不動明王像が残っている。

島津義弘も長子鶴寿丸の肖像を阿弥陀如来として安置したと言われる。
(桃木野入口近く)

16 弥勒窯跡(みろくかまあと)

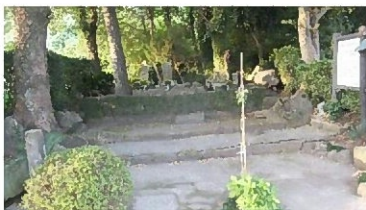


・磁器づくりに挑戦した龍門司焼の伝説

この窯は加治木島津家により、天明6年(1786)に龍門司焼の陶工と長崎県三川内焼から招かれた技術者たちが開いた。発掘調査の結果、最大幅は6mを測る大規模な連房式登り窯で、製品は日常食器の碗・皿類が圧倒的に多い。

絵付けは細線で丁寧に仕上げられ、碗の内底に描かれた昆虫文が特徴的である。
(弥勒)

17 後藤塚(ごとうつか)



・木田の湯湾岳の南麓にある。元和5年8月16日、山路後藤兵衛種清が領主島津義弘に殉死した場所である。同人は、帖佐の人で、島津義弘へ殉死した13人のうちの一人である。かねて同志の七士と実窓寺川原で切腹すると決めた日、彼はまだ暗いうちから畑に出て野菜の種まきをしていた。そこへ親戚や友人らが別れに来たところ、人々は、その落ち着いた態度にびっくりしたそうである。

そこで、彼は座敷に招いて別れの盃を済ませ、長年住み慣れた帖佐の家を出て実窓寺川原に向かったが、その途中で七士の切腹がすでに終わったことを聞き「それではもう実窓寺川原へ行く必要はないから、ここで切腹して殿様の後を追って参る」と路傍にドカツと座ってゆっくりと切腹の用意を済ませ、付き添いの人にそこに転がっていた石を指さして「これを墓石にしてくれ、私が死んだ後、もし、主君の義弘公や殉死を約した人々と逢うことができた時は、その石が三に折れるから」と言い残し切腹した。死体は、加治木・帖佐の見渡せるところに埋めてくれとの遺言であったから、その切腹の所に埋め、その石を墓標にして建てておいたところ、その後、果たして後藤兵衛のいったように三に折れた。今でもそれが、後藤塚に残っているあの自然石の墓石であると言われている。

(国道10号線弥勒交差点近く)

18 小鳥神社(こがらすじんしゃ)



・新生町の交差点沿いにあるが、神体は、木座像二体、高さ七寸、祭神は彦々出見尊と言われている。幕末は、ここで寺小屋が開かれ、小鳥塾と呼んでいた。

この神社はカラスを神として祭った神社であり、旧暦4月3日には家々で餅や小麦団子を作り、それをワラットに入れて庭木等に下げ、コガライドン(鳥の事)にあげていた。小鳥神社は、国分、帖佐などにもあり、いわば加治木、国分あたりでは鳥を神として祭る信仰が強かった。

今でこそ、カラスは不吉な鳥のように思う人が多いが、古くはヤタガラス神話でもわかるように、日本全国に亘って鳥を神の遣い使いとして祭っており、あるいは太陽を表現する意味にも使われていた。

そこで、加治木鳥(カチッガラス)という言葉の古い本来の意味は、加治木地方はカラスを大切に信仰する土地柄を示す言葉と思われる。と同時に、川内ガラッパも、川内地方は河童が川の神として信仰されている土地柄だということである。

それがだんだんと忘れられて、最近は加治木や川内の人を「加治木カラスと川内ガラッパ」と軽視して笑い気味にとられているが、それは加治木や川内地方の文化の古きを知らないための誤解だということである。加治木ガラスについては、2通りの意味がある。

一つは加治木町の住民はカラスのように賢くて、物おじせず個人的意見もはっきり述べるという積極的解釈である。

もうひとつは、カラスのようにずるくて賢い、また、言うことだけ「カアカア」主張するが、実行が伴わず他人の足を引っ張るというマイナス的解釈である。積極的解釈は加治木町民が好んで行い、出典を神武天皇が大和東征する際、道案内役を務めた三本足の八咫鳥(やたがらす)に求める。もっともこの解釈は無理にこじつけた説もある。古来、「加治木は教育と文化の中心地」、他地域に対して指導的役割を果たしていたから、「八咫鳥にたとえられた」という人もいる。

(小鳥)

19 伊勢神社(いせじんしゃ)(新中・西の原・楠園の氏神)



・この地方で最も古い神社ともいわれる。加治木五社のひとつであった。ご神体は、木像二体、ご祭神は「天照大神」である。昔は神領地「小字奉社田」一町三反の田地あり、二月朔日、奉謝二月三日、十一月三日の年3度の祭りがあった。17世紀、代宮司を西の原門の次郎左衛門が、後年、帖佐郷土の平山孫兵衛が勤めている。

(木田西の原)

※ 参考文献・資料

- ・加治木風土記 加治木老人クラブ発行 昭和 **58**年 **2**月
- ・加治木郷土史 加治木町長宇都宮明人発行 改訂版平成 **4**年 **11**月
- ・加治木文化 加治木町教育委員会発行 平成 **9**年 **3**月
- ・木田の歴史と文化 加治木町木田土地改良区発行 平成 **13**年 **6**月
- ・始良市指定文化財マップ 始良市教育委員会発行 平成 **23**年
- ・加治木町文化財マップ 始良郡加治木町教育委員会発行 平成 **13**年 **7**月
- ・始良市田の神ガイドマップ 始良市教育委員会発行
- ・始良探訪帖 始良市観光協会発行

2. 計画策定の経過

期 日	項 目	内 容	会 場
平成 28 年 6 月 3 日	コミュニティ協議会 第 2 回役員会	校区まちづくりプラン事前打合 せ 校区まちづくり策定委員選定	事務室
6 月 22 日	第 1 回策定委員会	策定の意義・今後の日程	公民館
7 月 27 日	第 2 回策定委員会	役割分担決め	公民館
9 月 28 日	第 3 回策定委員会	計画案の第 1 回発表	公民館
10 月 26 日	第 4 回策定委員会	計画の検討 1 回目	公民館
11 月 30 日	第 5 回策定委員会	計画の検討 2 回目	公民館
12 月 15 日	第 6 回策定委員会	計画の検討 3 回目	公民館
1 月 17 日	第 7 回策定委員会	計画の検討 4 回目	公民館
2 月 22 日	第 8 回策定委員会	計画の検討 5 回目	公民館
3 月 10 日	第 9 回策定委員会	計画の検討 6 回目	公民館

3. 加治木校区まちづくりプラン策定委員会委員

No	役 職	氏 名	策定委員会での 役 職
1	校区コミュニティ協議会会長	小島 伸一	委員長
2	同上副会長兼事務局長	竹畑 薫	副委員長
3	加治木小学校 PTA 会長	外園 陽一	委員
4	校区女性住民代表	堀 広子	委員
5	校区女性住民代表	西 尚美	委員
6	校区自治会代表	井手ノ上憲明	委員
7	加治木小学校長	今村 伸一	委員
8	校区総務安全部長	久成 俊明	委員
9	校区生涯学習部長	山元 多門	委員
10	校区健康福祉部長	山口 秀則	委員
11	校区青少年育成部長	種子田 定治	委員

お わ り に

この欄で私は、とにかく、加治木校区まちづくりプラン策定委員会のメンバーの方々にお疲れ様でした、有難うございましたと一人一人にお礼を申し上げたいと思います。

特に、血涙の思いでこの会をリードされた委員長を始めとして、メンバー全員が真摯に討論しながら加治木校区まちづくりプランが出来ましたことを嬉しく思います。このプランに基づいて実効性が上がりますように皆様と一緒に努力してゆきましょう。そして、不具合が有れば手直しをしながら取り組んでいきましょう。加治木校区としての基本理念は安心で、安全な、心豊かに過ごせるまちづくりプランです。

今後、市の総合戦略に基づいて色々な施策が打ち出されるのではと考えられます。その都度校区コミュニティ協議会は、取り組んでいかなければなりません。校区の多くの住民に対して具眼者としては程遠いですが、このまちづくりプランで平成 29 年度以降の行動計画の規範にしていける様、作成いたしましたのでよろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

加治木校区まちづくりプラン策定委員会
副委員長 竹畑 薫